

陶・漆・七宝三人展 ―色いろいろ― ―そごう横浜店

工芸の色をめぐる旅―陶芸・漆芸・七宝の競演



相川くるみ オーバル皿 28.5×17×h4.5cm 陶



常信明子 こつぶき あじ 七宝、銅、銀、磁器
※参考作品



久保万理子 春の花々 ●×●cm 螺鈿、卵殻、蒔絵ほか

あいかわくるみ

1989年千葉県佐倉市生まれ。2017年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻陶芸研究分野修士課程修了。21年Art Café Gallery 茶々華にて個展ほか。現在、東京都北区にて制作。

くぼ・まりこ

1989年神奈川県生まれ。2015年東京藝術大学 美術学部工芸科卒業。17年 東京藝術大学 大学院美術研究科漆芸専攻修了。23年Gallery子の星にて個展(同24年)ほか。

じょうしん・ひろこ

1991年神奈川県生まれ。2015年東京藝術大学美術学部工芸科卒業。17年東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻彫金修了。日本橋高島屋、銀座三越ほかで個展。KOGEI Art Fair Kanazawa(金沢)、ジ・アートフェア アプリュス・ウルトラ、日本七宝作家協会展ほか。

陶・漆・七宝 三人展 ―色いろいろ―

会期 ― 1月13日(火)～19日(月) 会期中無休
10時～20時(最終日は16時まで)

会場 ― そごう横浜店 6階美術画廊
横浜市西区高島2-18-1
☎045(465)2111

東京藝術大学工芸科出身の女性作家3名による競演展が開催される。同級生として学び、それぞれ「陶芸・漆芸・彫金」の道へ進んだ三人が、素材に寄り添い培ってきた独自の表現を披露する。

陶芸の相川は、道端や庭先の草花から着想を得た器を制作。シェラックレジスト技法に独自の彩色を施し、レリーフ状の模様が軽やかに立ち上がる。日常にそっと楽しみを添える器づくりを大切にしている作家。

漆芸の久保は、螺鈿・卵殻・蒔絵といった伝統技法を駆使して絵画的表現に挑む。薄貝の裏彩色による色鮮やかな花びら、うずら卵の殻を割り並べて描く繊細な模様など、緻密な手仕事の魅力。

彫金の常信は、金属にガラス釉薬を焼き付け、銀線で区切る「有線七宝」を用いて作品を制作。近年は日本の食を主題に、モチーフの美しさや食卓を囲む幸福感を色彩豊かに表現している。それぞれの素材が奏でる「工芸の色」を堪能できる、稀有な三人展だ。